



「神田青果市場発祥之地」の碑

—こちらのコーナーでは、千代田区の地名や旧町名、名所、坂、橋などを紹介していきます。過去から現代へつながる地域の歴史と記憶をめぐる小旅行へと出かけましょう。

神田須田町一丁目の街角、多町大通りと靖国通りの交差点付近に「神田青果市場発祥之地」の碑が立っています。この界隈には、江戸から大正期まで栄えた神田青果市場、通称「やっちゃん場」がありました。

「やっちゃん場」という呼び名は、競りの掛け声が「やっちゃん やっちゃん」と聞こえたからとも、八百屋仲間が使う合言葉に由来するとも諸説あります。その歴史は古く、慶長年間（1596-1615）、神田多町の名主・河津五郎太夫が町内に青物市を開いたことに始まるといわれます。やっちゃん場は千住・駒込とともに幕府の青物御用を務め、江戸三大青物市場として知られていました。また、やっちゃん場に隣接する神田須田町には水菓子（果物のこと）問屋が多く、毎朝、市が立ち、江戸名物の一つに数えられています。

明治維新後、やっちゃん場は須田町の水菓子問屋と合併して神田青果市場となり、明治30年代には200店以上の青物・果物問屋が軒を連ねるまでに発展します。しかし関東震災により大きな被害を受け、復興計画により昭和3年（1928）、神田山本町（現・外神田四丁目。秋葉原駅北西付近）に移転。さらに平成元年（1989）には新設された大田市場へ移転し、300年以上にわたって江戸東京の台所を支えた神田のやっちゃん場はその幕を閉じました。

現在、やっちゃん場の跡地はオフィスビルや商店が立ち並ぶビジネス街に姿を変えています。大きく変わった街並みからかつての面影をうかがうことはできませんが、街角にある石碑や町名由来板は、失われた地域の歴史や記憶を今に伝えてくれます。

シリーズ

千代田の学び人にあいたい vol.7

谷真理子さん [千代田区立麹町小学校 ワーク・わく・クラブ]



前号の「学び人」一般社団法人D&A Networks代表理事の中田弾さん（左）からご紹介いただき、今回は、千代田区立麹町小学校ワーク・わく・クラブを中心に、千代田区内で多彩な活動をする谷真理子さん（右）にお話を伺いました。



中田さんから谷さんへのご質問「生涯学習や地域での活動において、今と昔で求められているものに違いはありますか？」

今一番メインで行っているのがワーク・わく・クラブの活動ですが、もともと麹町小学校のPTA会長をしていた延長で始めました。麹町小学校の子どもたちを対象に土曜日に課外活動をするクラブで、パードウォッチングやステンドグラス作りなど、さまざまな企画を実施しています。もう14年目になり、変わったこともあります。今も昔も求められていることは同じ、やはり信用でしょうか。長年活動を続けてきたことで規模も大きくなり、その分信用もいただいて、今ではすごく自由に企画させていただいています。中田さんにご紹介いただく学生ボランティアさんにもずいぶん活動を助けていただけてきました。

ワーク・わく・クラブの活動以外では、麹町小学校の地域協力員のような役割もさせていただいたり、青少年委員会や生涯学習推進委員会などに携わったりもしました。地域の集まりには積極的に顔を出していて、この間はシニアのファッションショーの企画にお手伝いで参加しました。表に出てみんなで集まるきっかけを作って、それぞれが孤立せずにつながりを育んでいければいいですね。私も活動していく中で実感しましたが、仲間にも恵まれることはとても大切だと思います。

今後の活動については、特に野望は持たず、毎日楽しく暮らしていければと考えています。自宅で絵画教室をしていたことやPTAでの活動が今の活動のきっかけになっているのですが、やはり人が好きだということと、子どもたちと楽しみたいということがずっと変わらず根本にあります。活動団体同士で子どもの取り扱いをせず、本当に子どものためになるように活動していけたらと考えています。子どもたちのボスでいたいですね。

Interview Relay

DanDan

千代田区立九段生涯学習館
平成31年3月20日発行

発行
千代田区立九段生涯学習館
株式会社小学館集英社プロダクション

DanDan編集部
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-10
TEL 03-3234-2841 FAX 03-3262-7460

280

／ 九段から発信する生涯学習コミュニティペーパー ／

volume

19

TAKE FREE

DanDan

ありがとう、ゆっくり、まあるく かかわっていく

九段でつながる江戸文化

江戸の魅力

九段生涯学習館では毎年、「江戸」の魅力を現代に伝え、継承すること、活かすことを目的とした講座を展開しています。今年度の江戸に関する講座にご登壇いただいた、実際に魅力を伝え続けている先生方についての「江戸の魅力」を、一問一答形式で特集します。



〈上段〉長唄でほどこー江戸の情緒と三味線体験―[左] 怪談で紐解く講談と落語の世界[右] 〈中段〉絵巻物から読み解く江戸の暮らしと食文化[左] 大相撲と行司の世界[右] 〈下段〉怪談で紐解く講談と落語の世界[左] 絵巻物から読み解く江戸の暮らしと食文化[右]

もくじ

- ①特集 | 江戸の魅力―九段でつながる江戸文化―
- ②時と土地をめぐる ちよだ旅情 | やっちゃん場
- ③シリーズ | 千代田の学び人にあいたい



編集後記 ▶▶▶ DanDan編集部 永島

谷さんに取材させていただいたのは、麹町にある和洋折衷のカフェスペース。切子細工のような美しい石づくりの広場と、お昼時の店内に漂うおいしいパンの匂いを思い出します。新しさと歴史が溶け合う、千代田のまちの魅力を再発見する号になりました。

江戸の魅力 ―九段でつながる江戸文化―

九段生涯学習館では今年度、「江戸」に関するさまざまな生涯学習講座を実施し、多くの方々に江戸の魅力を堪能していただきました。講座を終えた講師陣の言葉を通して江戸の魅力をお伝えします。

- Q1 ▶▶ ご自身の思う「江戸の魅力」は？
Q2 ▶▶ ご自身の職業の魅力や特性は？
Q3 ▶▶ 講座を通して「江戸」について改めて感じたことは？



2018.8.24/8.31 教養講座

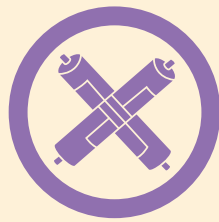
怪談で紐解く講談と落語の世界 [全2回のべ97名参加]

A1 ▶▶ 「less is more」、「何もないけど、何でもある」ではないでしょうか。落語では、長屋のみんなが貧乏で、スマホも電子レンジもテレビもないけれど、今よりも精神的には豊かだったような気がします。 A2 ▶▶ 日本で唯一の寄席演芸の月刊専門誌の編集人を務めています。寄席演芸の魅力と情報を、落語や講談、浪曲に関心のある人

たちに向けて、寄席や演芸会の出演情報やテレビやラジオの演芸番組の詳細まで、ありとあらゆる情報や読み物を提供しています。 A3 ▶▶ 素晴らしい演者の話芸で、平成から一気に江戸へさかのぼり、まるで自分たちがその時代に生きているかのような錯覚を味わわせてくれたこと、改めて、江戸と今は点ではなく、線でつながっている地続きであることを確認しました。

佐藤友美氏▶

東京かわら版 編集人



2018.11.17 九段LLカフェ講座

絵巻物から読み解く江戸の暮らしと食文化

[全1回22名参加]

A1 ▶▶ 史料の豊かさが魅力だと思います。そしてこれからはよりプライベートな史料に注目が集まり、研究がすすむことを期待しています。旧家に残る日記や帳簿などはとても価値のある史料です。 A2 ▶▶ 私は江戸時代の辞書や図鑑を執筆・描画しております。歴史学を基礎にしたレジャーの歴史です。当時の人々の気持ちを現代の人々と結び付け、役立つ知恵を掘り起こすこと、また、歴史への興味の窓口となることを目的にしています。 A3 ▶▶ 江戸の人々の暮らしを描画することの魅力を再認識いたしました。今回は『一心堂本舗 麹町照覧絵巻』をご覧いただき、書籍の中に閉じこもらず、現物を見て楽しんで頂けることも大事であり、そして楽しいことだと思いました。

善養寺ススム氏▶

江戸研究家
イラストレーター



櫻井美代子氏▶

東京家政学院大学助教
管理栄養士



2018.11.17
九段LLカフェ講座

絵巻物から読み解く江戸の暮らしと食文化

[全1回22名参加]

A1 ▶▶ 江戸時代の食を料理書からみると、具体的な内容が無いものも多いのですが、現代にない発想の料理も見受けられ、その素材を生かした料理がたくさんあり、それらから、今にない贅沢さを感じる人が多いです。 A2 ▶▶ 大学で食文化に関連した授業を持っています。卒業研究や自分自身の研究、授業用として江戸期の史料・資料に接することは興味深いです。また古くからの事柄を少しでも伝えることができればと思っています。 A3 ▶▶ 大勢の方々に受講していただき、興味がある方が多いということが分かり、とても感動いたしました。まだまだ沢山の美味しい江戸時代の料理があり、アレンジ次第では、現代の食生活にも活用できると思っています。



山崎敏廣氏▶

元立行司 36代木村庄之助



2018.12.19

2019.1.9 区民自主企画運営講座

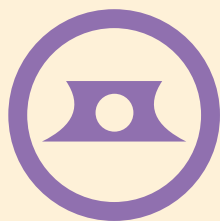
長唄でほどこ 江戸の情緒と三味線体験

[全5回のべ101名参加]

A1 ▶▶ “花のお江戸”としての「自意識」を持ち、人々がつくりあげた都市であること、でしょうか。だからこそ、明治になっても東京になっても、都市としての魅力が全く失われなかったのだと思います。 A2 ▶▶ 職業は江戸と何の関わりもない会社員なのですが、長唄三味線を習っていると、伝統芸能の世界に生きている方々の「覚悟」「矜持」に圧倒されることがあります。むちゃくちゃにカッコ良いです。 A3 ▶▶ こんなにもたくさんの方が「江戸」という時代や町に魅力を感じているのか!と、何だか嬉しくなりました。また改めて、私自身勉強し直したいと思います。

細谷朋子氏

『長唄の世界へようこそ』著者



2018.12.5

2019.1.23/2.6 区民自主企画運営講座

長唄でほどこ 江戸の情緒と三味線体験

[全5回のべ101名参加]

A1 ▶▶ 江戸庶民の文化にその魅力を感じます。貧しくても中世のような悲観がなく、明るく軽快に生きる知恵と工夫にあふれた庶民のバイタリティを感じます。四季折々を楽しみ、苦しいことを笑に変え人生を謳歌する…たくましい江戸人に憧れます。 A2 ▶▶ 長唄の三味線方です。長唄は江戸時代に発生し歌舞伎とともに発展してきたジャンルの音楽。長唄を鑑賞したり、実際に演奏してみると、歌詞の内容からはもちろん、三味線の旋律からも江戸の情景を感じていただけたり、江戸庶民のセンスや感覚に思いを寄せることができますと思います。 A3 ▶▶ 講座開催の告知後すぐに満席となったと伺っています。皆さんの江戸文化へのご興味の高さを改めて感じました。時代劇など江戸時代のことを知る媒体が少なくなっていく中、長唄を通して江戸文化を知っていただく活動をこれからも展開できればと思います。

杵屋勝くに緒氏▶

長唄三味線演奏家



2019.1.11/1.22 教養講座

大相撲と行司の世界 [全2回のべ40名参加]

A1 ▶▶ 昔ながらの佇まい、現代の町並また伝統文化、食文化その他いろいろな祭事が共存しあう魅力ある町である。 A2 ▶▶ 力士は各藩の殿様に召し抱えられ各地に出向いて力を競い合っていました。また人々も町のあちこちで相撲をとっていました。

その一斉の進行役としてすべてを任されたのが行司の始まりで、今日までそれが続いているのがおもしろいと思う。 A3 ▶▶ 日本の中心地として永年にわたり栄え、古き良き伝統文化、名所、史跡等が数多く残る素晴らしい所だと思う。